

(原文 URL : <https://mailchi.mp/theibta/rculorsyeg-2299298?e=940563a4b2>)

IBTA e-News 国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター 2021 年 5 月号

【トップニュース】

2021 年米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 年次総会のアブストラクトがオンラインで入手可能に

6 月 4 日から 8 日までオンラインで開催される米国臨床腫瘍学会 (American Society of Clinical Oncology) の年次総会 (2021 ASCO) のアブストラクトが公開された。学術プログラムと教育プログラムが同時に開催される。すべてのアブストラクトは、[こちら](#)からオンラインで自由に閲覧可能。学会の詳細は[こちら](#)。

行動のとき - 新型コロナに負けずに、がんと闘おう

欧州がん機構 (E.C.O.) は、5 月 11 日のバーチャルイベントで、「行動のとき (Time To Act)」キャンペーンを開始した。このキャンペーンは、「Covid-19 (新型コロナウイルス感染症) に負けずに、がんと闘おう」という重要なメッセージを掲げ、COVID-19 パンデミックによるがんの検診、診断、ケア、ウェルビーイング (健康で安心な満足できる生活状態) への壊滅的な影響を回復させようとするものである。一般市民、医療従事者、政策立案者、意思決定者を対象としたキャンペーン資料が、30 以上の言語で提供されている。キャンペーン発表会の様子は、[こちら](#)で閲覧可能。キャンペーン資料、動画等の情報は TimeToActCancer.com で閲覧可能。IBTA は、E.C.O. とともにこの活動に深く関わり、この活動を強く支持している。「行動のとき」キャンペーンは欧州各国で展開される予定で、最近ではポーランドで開始され、今後、イタリアでは 6 月 17 日、スペインでは 6 月 25 日に開始される。さらに詳しい情報や参加をご希望の方は、info@europeanccancer.org まで。

NCI-CONNECT によるサバイバーシップに関する調査-調査回答者への呼びかけ

米国に拠点を置く米国国立衛生研究所国立がん研究所がん研究センター神経腫瘍学部門の NCI-CONNECT (米国国立がん研究所脳脊髄希少がんネットワーク) プログラムは、脳・脊椎腫瘍とともに生きる人々とそのケアパートナーのサバイバーシップケア、研究および教育の課題、問題、およびニーズに関する皆様のご意見を求めている。いただいたご意見は、神経腫瘍学の専門家やリーダーと共有し、サバイバーシップケアのガイドラインの作成や、脳・脊椎腫瘍のサバイバーシップケアにおけるギャップの解消に役立てていく。8 つの質問に答えるだけのこのアンケートは、約 5 分で完了し、どの国の患者さんや介護者の方でも参加可能。詳細は[こちら](#)。

【治療関連ニュース】

膠芽腫における腫瘍治療電場 (TT フィールド) ペースの併用療法の新たな「青写真」を発表

American Journal of Cancer Research 誌に掲載された総説では、腫瘍治療電場 (TT フィールド) 技術を膠芽腫治療における「カクテル療法」(併用療法) の一部としてどのように使用するのが最適かという「青写真」が述べられている。この論文の著者は、TT フィールド技術に関する発表済みおよび進行中の臨床研究を要約して評価し、TT フィールドが膠芽腫の確立されたあるいは試験中の薬剤や治療法をどのように補完し、強化することができるかを考察している。[続き](#)を読む(論文全文)。

【研究ニュース】

高悪性度神経膠腫の小児を対象としたウイルス免疫療法の臨床試験で良好な結果を報告

小児の高悪性度神経膠腫を対象とした第 1 相臨床試験で、がん細胞に感染するように設計されたヘルペスウイルス G207 の安全性と抗腫瘍効果が確認されたことが、[New England Journal of Medicine](#) 誌に掲載された。本試験では、7~18 歳の高悪性度神経膠腫患者 12 名に、カテーテルを用いて直接腫瘍部位に G207 を投与した。その結果、11 名の患者が治療に反応し、4 名の患者が 18 ヶ月後も生存していた。[続き](#)を読む。

米国食品医薬品局(FDA)の委員会が小児・青年期のがん治療の副作用を観察する新しいシステムについて検討

がん治療に関するデータをレビューし評価する独立した専門家のグループである米国食品医薬品局(FDA)抗がん剤諮問委員会(FDA ODAC)は、子どもの視点を取り入れた、小児がん患者(脳腫瘍患者を含む)の治療による副作用や症状を記録する新しい方法について検討した。同委員会は、小児版 PRO-CTCAE(Patient-reported outcomes measurements linked to the Common Terminology Criteria for Adverse Events)で知られるこのツールが、小児患者では報告されないことが多い治療の副作用を医師がより深く理解し、観察するうえで有効かつ信頼性の高い方法であることを示す[研究](#)のデータを検討した。[続き](#)を読む。

再発固形がんの小児患者を対象に、免疫療法剤と低用量化学療法剤を併用する臨床試験の参加者を募集

小児の脳腫瘍を含む再発固形がん(ただし、小児高悪性度神経膠腫/びまん性内在性橋膠腫を除く)を対象に、免疫療法剤ニボルマブと低用量化学療法剤を併用する第 1/2 相臨床試験(Metro-PD1)の第 2 段階の募集が開始された。16 名の患者を対象とした第 1 段階では、化学療法(シクロホスファミド、カペシタビン、ビンブラスチン)に、免疫系を活性化する「チェックポイント阻害剤」であるニボルマブを併用した際の安全性を検証した。現在、フランスとベルギーのさまざまな施設で、治療効果を検証する第 2 段階の小児患者を募集している。[続き](#)を読む。臨床試験の詳細は[こちら](#)と[こちら](#)(clinicaltrials.gov)。

再発高悪性度神経膠腫の治療を目的とした非侵襲的超音波力学療法のファースト・イン・ヒューマン臨床試験で最初の患者への投薬を実施

米国バロー神経研究所の[アイビー脳腫瘍センター](#)は、脳腫瘍における世界最大の早期薬剤開発プログラムである。同センターは、超音波力学的療法(SDT)のファースト・イン・ヒューマン(被験薬を動物ではなくヒトに対して世界で初めて投与する臨床試験)第 0 相臨床試験における最初の患者への投薬を発表した。超音波力学的療法では、脳腫瘍細胞に蓄積する薬剤を注入する。Sonala-001 と呼ばれるこの薬剤は、5-アミノレブリン酸(5-ALA)の特殊製剤である。同剤を注入後、MRI ガイド下で脳腫瘍塊に超音波を照射し、Sonala-001 の副産物を活性化させてがん細胞を破壊する。[続き](#)を読む(動画あり)。本試験の詳細は[こちら](#)(Clinicaltrials.gov)。

抗体治療によりチェックポイント阻害剤の免疫療法が膠芽腫に対してより有効になることが動物実験で判明

膠芽腫のマウスを用いた一連の実験で、免疫チェックポイント阻害剤(免疫療法の一つ)の有効性を高めることができる可能性が示され、[Nature Communications](#) 誌に掲載された。研究者らは、膠芽腫が、通常身体が自身を攻撃するのを防ぐ役割を果たしている「Treg」(制御性 T 細胞)と呼ばれる T 細胞を操作し、他の免疫系から自身を隠す(遮蔽する)仕組みを明らかにした。Treg の表面にある GITR(glucocorticoid-induced TNFR-related receptor、グルココ

ルチコイド誘発性 TNFR 関連受容体)と呼ばれる受容体タンパク質を標的とした抗体薬をマウスに投与することで、この遮蔽機能を逆転させ、Treg を腫瘍に対抗する免疫細胞に変えた。さらに、免疫チェックポイント阻害剤(がんによる免疫系の阻害作用に対抗する薬剤)を同時に投与することで、ヒトの膠芽腫をもつ動物の生存期間を延長するうえで有効であることが認められた。[続きを読む](#)。

神経膠腫を引き起こす突然変異の原因を探る研究

神経膠腫の発症を引き起こす原因を解明する目的で、(米国国立がん研究所のゲノムデータコモンズデータポータルおよび神経膠腫長期解析コンソーシアム(GLASS コンソーシアム)が収集した)成人神経膠腫サンプル 1,105 件の DNA を徹底的に解析した結果が、*Neuro-Oncology* 誌に掲載された。この研究では、神経膠腫の原因となる突然変異は、汚染物質や発がん性物質(外因性因子と呼ばれる)ではなく、DNA 複製のエラー(内因性因子と呼ばれる)によるものであり、多くの場合、加齢の結果であることが明らかになった。また、がんの原因となる突然変異のスペクトルは男女で異なっており、本研究の著者らは、ハロアルカン(難燃剤や消火器に含まれる)へのまれな環境暴露が神経膠腫症例の原因となる可能性があることを強調している。[続きを読む](#)(記事全文あり)。

白質の正常な修復プロセスが膠芽腫の増殖を止める可能性があることが動物実験で判明 : 将来の脳腫瘍治療薬として期待される喘息薬

Nature Communications 誌に掲載された一連の動物実験の結果では、脳の自然な修復プロセスを利用することにより、膠芽腫の増殖を止めることができる可能性が示唆された。研究者らは、マウスで増殖させたヒトの脳腫瘍を用いて、脳の白質(脳細胞の長い突起がある脂肪分の多い部分)に侵入した膠芽腫細胞が、腫瘍を抑制する修復反応を引き起こすことを発見した。そこで、喘息薬として承認されているプラフルカストを含む、身体の白質の修復プロセスを促進する薬剤を投与したところ、マウスの生存期間が延長された。[続きを読む](#)。

CAR-T 細胞療法が動物の膠芽腫を取り除くのに有効であることが判明

Clinical & Translational Immunology 誌に掲載された実験結果では、新しいタイプのキメラ抗原受容体(CAR)-T 細胞療法により、ヒト膠芽腫を持つマウスの脳腫瘍を完全に取り除くことができた。本研究では、研究者らは、脳腫瘍細胞に共通して存在するタンパク質である上皮成長因子受容体変異型 III(EGFRvIII)に強固に結合する分子受容体を開発し、これを抽出した T 細胞(免疫細胞の一種)に組み込んだ後、血流に再注入した。CAR-T 細胞療法は、血液がんの治療に有効であることが示されており、この新しい技術によって膠芽腫の CAR-T 細胞治療が有効になることが期待されている。[続きを読む](#)。

動物実験により、集束超音波と新しい RNA ベースの脳腫瘍治療法の併用が期待できると発表

研究チームは、悪性脳腫瘍に対する新しい RNA ベースの治療薬を「マイクロバブル増強集束超音波」を用いて、血液脳関門を通過して脳腫瘍に送達できることを実証した。*Science Advances* 誌に掲載された方法では、腫瘍細胞の増殖を妨げるようにプログラムされた RNA(遺伝情報を運ぶ分子)の断片を、脂質でコーティングされた小さな(50nm)ナノ粒子に装填し、血液中の移動に耐えられるようにした。このナノ粒子を、マイクロバブルとともに、髄芽腫と悪性神経膠腫を持つ動物に注入した。その後、腫瘍に集束超音波を照射してマイクロバブルを活性化することで、ナノ粒子が腫瘍内に浸透できる程度に血液脳関門を一時的に緩め、腫瘍内にがんと闘うナノ粒子を蓄積させた。[続きを読む](#)。

髄膜腫に対する陽子線治療と従来の放射線治療の間に有害事象の差はないとの研究結果を発表

[Journal of Neuro-Oncology](#) 誌に掲載された研究によると、髄膜腫患者に陽子線治療と従来の放射線治療(光子線治療)のいずれかを行った場合、平均(中央値)2.2年の追跡調査の結果、両群間で有害事象や生存率に差がないことがわかった。髄膜腫では、手術が困難な場合や他に気になる点がある場合に、放射線治療が行われることがある。陽子線治療を受けた38人の患者と光子線治療を受けた39人の患者を対象としたこの後ろ向き分析(調査を開始した時点から過去に遡って集めた対象者の情報を利用して行う分析)では、治療結果はほぼ同様であると結論付けられた。ただし、陽子線治療後にMRIスキヤンの一部の画像でより多くの変化(造影後T1およびT2信号の強度の異常)が認められたため、さらなる研究が必要であると考えられる。[続きを読む](#)。

膠芽腫患者の化学放射線療法後の偽性進行の診断、および脳転移に対する免疫療法や標的治療の指針としてのPET検査の価値を強調する研究結果を発表

Clinical Cancer Research 誌に掲載された研究では、放射線治療、テモゾロミドおよびロムスチンの併用療法(CeTeG/NOA-09プロトコルとして知られている)を受けている初発膠芽腫患者に対して、FETトレーサを用いたPET(陽電子放出断層撮影)検査を定期的に行うことで、治療計画を改善できる可能性が示唆されている。放射線治療後5~25週間以内にFET-PET検査を受けた患者23人の評価では、MRI検査が不明確な場合に、この技術が「偽性進行」と真の腫瘍の増殖を区別するのに有効であることが示された。今回の解析では、11人(48%)の患者において、偽性進行(実際の進行を伴わないが腫瘍増殖に類似した検査画像)が見られた。[続きを読む](#)(アブストラクト)。
[Journal of Nuclear Medicine](#) 誌に掲載された40人の脳転移患者を対象とした別の研究では、FET-PET検査が、免疫チェックポイント阻害剤や標的治療を受けている脳転移患者の治療モニタリングに有効であることが報告されている。この技術により、MRI検査では結論が出ない場合でも、再発や腫瘍縮小をより正確に検出することができる。[続きを読む](#)。

コンピュータシミュレーションで膠芽腫治療薬の標的候補を発見

膠芽腫内の複雑な遺伝子制御経路をシミュレーションするコンピュータプログラムにより、理論的には膠芽腫の増殖を防ぎ、がん細胞を死滅させる目的で薬剤が標的とするべき内部分子プロセスの重要なポイントを特定した。研究室で使用されている9種類の膠芽腫の腫瘍型(細胞株と呼ばれる)に存在する変異をこのプログラムに入力し、コンピュータシミュレーションによって、治療標的となった場合に最も抗腫瘍効果を発揮しそうな遺伝子をランク付けした。さまざまな抗がん剤、非抗がん剤、実験的な薬剤、およびそれらの併用の効果についてもこのコンピュータシミュレーションにより評価された。[続きを読む](#)(記事全文)。

【企業ニュース】

Novocure社とGT Medical Technologies社が再発膠芽腫に対するTTフィールドおよびガンマタイラ療法の臨床試験を共同で実施

Novocure社は、GT Medical Technologies社と臨床試験協力契約を締結し、再発膠芽腫を対象に、腫瘍治療電場(TTフィールド)とGT Medical Technologies社のガンマタイラ外科的標的放射線療法(STaRT)を併用した治療アプローチを検討することを発表した。Novocure社のTTフィールドは、がん細胞分裂を阻害する電場である。ガンマタイラは、米国食品医薬品局(FDA)に認可された治療法で、すべての種類の脳腫瘍を対象としている。両社は、再発膠芽腫を対象に、TTフィールド後に切除、ガンマタイラ療法、さらにTTフィールドを行うプログラムの有効性と安全性を検証するため、第2相パイロット試験を実施する予定である。[続きを読む](#)(企業プレスリリース)。

Northwest Biotherapeutics 社が英国における新規製造施設の MHRA 認証を申請

Northwest Biotherapeutics 社は、患者向け製品の製造を開始するために、英国ソウストンにある製造施設の認証を医薬品・医療製品規制庁 (MHRA) に申請したことを発表した。現在、ロンドンにある小規模な施設が稼働している。また、初発膠芽腫を対象とした DCVax-L の第 3 相試験の進捗の報告を行った。DCVax-L は、患者自身の樹状細胞 (免疫細胞の一種である) と腫瘍組織から作られ、免疫系が個人の特定の疾患を攻撃するように設計された、オーダーメイドの樹状細胞ワクチンである。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。

FDA が Samus Therapeutics 社の再発悪性神経膠腫を対象とした PU-AD の治験薬 (IND) 申請を承認

Samus Therapeutics 社は、再発悪性神経膠腫を対象とした PU-AD (icapamespib) の開発について、米国食品医薬品局 (FDA) が新薬治験許可申請 (IND) 申請を承認したことを発表しました。この承認により、Samus Therapeutics 社は、再発悪性神経膠腫の少数の患者を対象とした PU-AD の [第 1b 相試験](#) を進めることができ、本剤の安全性、忍容性、および体内での処理方法を検証することができる。PU-AD は、熱ショックタンパク質 90 (HSP90) と呼ばれる分子を阻害する薬剤で、アルツハイマー病の治療薬としても検討されている。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。

Day One Pharmaceuticals 社が DAY101 の進行性の小児低悪性度神経膠腫を対象とした第 2 相臨床試験で最初の患者が治療を受けたことを発表

Day One Pharmaceuticals 社は、BRAF 遺伝子変異を有する再発または進行性の低悪性度神経膠腫の小児、青年、若年成人患者を対象に、DAY101 の安全性と有効性を評価する第 2 相臨床試験 (FIREFLY-1 と呼ばれる) において、最初の患者が治療を受けたことを発表した。この BRAF 遺伝子変異は、さまざまな小児がんにおいてよくあるものである。DAY101 は、脳に到達し、腫瘍の増殖を促進する分子経路を阻害する薬剤であり、この分子経路は BRAF 遺伝子異常によって破壊されている可能性がある。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。臨床試験情報は [こちら](#) (Clinicaltrials.gov)。

CNS Pharmaceuticals 社が再発膠芽腫を対象としたベルビシンの臨床試験の登録を開始したと発表

CNS Pharmaceuticals 社は、再発膠芽腫を対象としたベルビシンの臨床試験の登録を開始したと発表した。本試験は、ベルビシンと化学療法剤のロムスチンを比較するランダム化第 2 相試験で、米国内の 35 施設から 210 名の患者を募集し、欧州にも拡大する予定がある。ベルビシンは、アントラサイクリン系の抗がん剤で、脳に到達してがん細胞に DNA 損傷を与えることができる。[続きを読む](#) (会社プレスリリース)。臨床試験情報は [こちら](#) (Clinicaltrials.gov)。

Medicenna Therapeutics 社が再発膠芽腫を対象とした MDNA55 の第 2b 相臨床試験のデータを発表

Medicenna Therapeutics 社は、再発膠芽腫を対象とした同社のイムノトキシン (抗体と毒素を人工的に結合させ免疫機能の対象となる特定細胞を攻撃する機能を持たせた薬剤) MDNA55 の第 2b 相臨床試験のデータが、[Clinical Cancer Research](#) 誌に掲載されたことを発表した。MDNA55 は毒素を装填した分子で、カテーテルを介して脳に直接投与され、膠芽腫細胞の表面に存在する受容体 (IL-4R) に結合して細胞内に毒素を送り込む。治療を受けた患者のうち、MRI で経過を評価できた患者の平均 (中央値) 全生存期間は 11.8 カ月であった。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。

【政策ニュース】

All.Can International が重要なデータペーパーを発行

IBTA が長年にわたり緊密な協力関係にある非営利団体 [All.Can International](#) が、重要な報告書「[より良いがん治療のためのデータ活用 \(Harnessing data for better cancer care\)](#)」を発表したことをお知らせする。本報告書は、政策立案者、医療提供者、患者、意思決定者に対し、質の高い医療データを体系的に収集・活用し、がん治療の全過程において患者の転帰を改善する確実な方法について、将来を見据えた見解を示すものである。この提言は、構造化された文献調査、16 人の専門家へのインタビュー、All.Can 国際データワーキンググループおよび外部諮問委員会との協議に基づいている。また、本報告書には、データによってがん医療がどのように変化したかについて具体例を示したケーススタディも含まれており、これらは他の地域でも見習うことができる。[続き](#)を読む。

【イベント／学会ニュース(抜粋)】

※患者向けイベントは省略 学会ニュースのみ抜粋

現在の COVID-19 パンデミックの影響で、世界中の多くの対面式の会議や学会が中止、延期、またはバーチャルイベントに変更されている。私たちはこうしたニュースに対応するよう最善を尽くしているが、予定されている会議の状況に関しては、必ず会議主催者に確認のこと。

2021 年の学会会議

6 月

[2021 年米国臨床腫瘍学会\(ASCO\)年次総会](#)

2021 年 6 月 4 日－8 日

オンライン

[第 1 回アジア脳腫瘍学会\(ASNO\)ウェビナー：脳腫瘍学の最新状況](#)

2021 年 6 月 4 日

オンライン

[2021 年神経腫瘍学会小児会議：第 6 回基礎と橋渡し研究会議\(隔年開催\)](#)

6 月 10 日－12 日

オンライン

[神経腫瘍治療後ケアに関する米国国立がん研究所脳脊髄希少がんネットワーク\(NCI-CONNECT\)シンポジウム](#)

2021 年 6 月 21 日

オンライン

[脳腫瘍疫学コンソーシアム第 22 回年次総会\(BTEC 2021\)](#)

“脳腫瘍バイオマーカー：研究、臨床、患者登録のために”

2021 年 6 月 22 日－24 日

オンライン

脳と脊椎転位に関するコロキウム

2021年6月25日－26日

オンライン

2021年脳腫瘍会議

2022年6月22日－24日に変更

ポーランド ワルシャワ

欧州腫瘍学会(EANO)ウェビナー:脳腫瘍の共局在における代謝脆弱性

2021年6月30日

オンライン

7月

英国神経腫瘍学会年次総会(BNOS2021)

2021年7月8日－9日

オンライン

米国神経腫瘍学会(SNO):脳腫瘍とその微小環境に関する基礎・橋渡しオミックス研究会議

2021年7月15日－16日

オンライン

米国神経腫瘍学会(SNO)中枢神経疾患に対するレーザー温熱療法:教育的ウェビナー

2021年7月21日

オンライン

8月

米国神経腫瘍学会(SNO):脳転移に関する第3回年次総会

2021年8月19日－21日

カナダ トロント

米国脳神経外科学会(AANS)2021年次総会:“脳神経外科の団結力を高める”

2021年8月21日－25日

アメリカ フロリダ州オーランド

9月

2021 欧州神経腫瘍学会(EANO)総会

2021年9月25日－26日

オンライン

10月

[米国神経腫瘍学会\(SNO\):中枢系疾患の臨床試験に関する会議](#)

2021年10月1日-2日

オンライン

[米国脳神経外科コンgres\(CNS\)2021年次大会](#)

2021年10月16日-20日

アメリカ テキサス州オースチン

[第34回欧州核医学会議\(EANM\)年次総会](#)

2021年10月20日-23日

オンライン

[国際小児がん学会\(SIOP\)2021年総会](#)

2021年10月21日-24日

オンライン

[欧州神経腫瘍学会\(EANO\)2021年総会教育イベント](#)

2021年10月23日

オンライン

[第13回 神経腫瘍学共同臨床試験グループ\(COGNO\)年次大会](#)

2021年10月24日-26日

オーストラリア メルボルン

11月

[米国神経腫瘍学会\(SNO\)2021年総会と教育イベント](#)

2021年11月18日-21日

オンライン

米国 マサチューセッツ州ボストン

2021年または2022年に開催される脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議(バーチャルか対面かは問わず)を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、kathy@theibta.org まで。[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTA ウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

== 翻訳者: 会津 麻美 / JAMT (ジャムティ) 翻訳チーム ==

IBTA(国際脳腫瘍ネットワーク)について

私たちについて 国際脳腫瘍ネットワーク(The International Brain Tumour Alliance: IBTA)は 2005 年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は www.theibta.org をご覧ください。

ご意見をお聞かせください。IBTA コミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先: chair@theibta.org 月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

(免責事項)国際脳腫瘍ネットワーク(IBTA)は、e-News(あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等)に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。(スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください)。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。